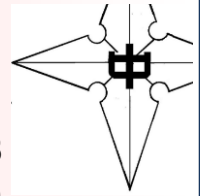


南浦和中だより



〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909

『 I Love You からはじめよう 』

校長 おお ころ うち のり かず
大河内 範一

我が家には『レッド』と『ブラック』の2頭のトイ・プードルがいる。その昔、「犬が欲しい」と騒ぐ家族に対し、動物と暮らした経験がなく、まったく気乗りしなかった私は、「じゃあ、とりあえず値段だけは調べてみるか」と、ホームセンターのペットコーナーにしぶしぶ連れて行ったところ、店内でも騒がれ、結局そのまま購入することになってしまった。

さらに半年後、同じペットコーナーにふらりと立ち寄った際、ありえない格安価格で店頭にいる黒い犬と目が合った。店長から「販売するには成長して大きくなり過ぎてしまって、なんとか・・・」という話を持ち掛けられ、つついその場で購入してしまった。手提げ式の段ボール箱に入れて持ち帰り、「はい、犬を買ってきたよ～」と子どもたちに渡し、びっくり仰天していた光景が懐かしい。

まだ幼かった息子と犬の間では、どちらの立場が上なのかを争っている時期があった。最終的には息子が犬のマズル（鼻の部分）に噛み付くという、どちらが犬だか分からないような暴挙に出て、自分の優位を見事に勝ち取っていた。

犬の飼育に関しては、ずぶの素人だったので、とにかく躰（しつけ）がなっていない。誰かが家が来ると必ず吠える。不審者対応としては役割を果たしているのだが、「ワオ～ン」と狼の遠吠えのような鳴き方をすることもあり、近所迷惑も甚だしい。

一番大きな生活の変化は、散歩に行く習慣ができたことである。今はなぜか私一人の役目になっていて、暑い日も寒い日も帰宅後に連れ出している。（帰宅時に雨だと雨天中止になるので、ちょっとホッとする・・・）これはきっと「少しは歩いて健康に気をつけろ」と、犬たちがメッセージを送ってくれているんだと解釈している。

グクシャクしながら始まった犬との生活も徐々に落ち着き、いつの間にか家族の一員になっていた。もう「老犬」と言われる年齢になったが、『レッド』の犬に肉腫ができてしまい、体育祭の翌日に手術をした。体重3kg程度の小さな体なのに、背中には8cm弱の縫い目があって痛々しかった。ドクターから犬を渡された時、犬を抱く手と、そして心が震えた。いつまでも元気でいてほしいと願わずにはいられなかった。

相手が動物だって人間だって、やっぱり自分から「好き」になることが大切だと思う。相手を思う気持ちがあれば、優しい心をもっていれば、どんなこともきっといい方向に進んでいく。

リビングに設置されているトイレの場所から、的外れの位置にウ○チがされていることが相変わらず続いているが、時折それが直立しているのを発見した時には「茶柱みたいで縁起がいいね！」と優しく微笑むようにしている。